

<b>授業科目</b>  成人看護学実習Ⅱ	<b>区分・教育内容</b>  専門分野Ⅱ 臨地実習		
<b>授業担当者</b>  菅原 晴美 (専任教員)	<b>開講時期</b>  中期	<b>単位</b>  2 単位	<b>時間数</b>  90 時間
<b>授業の目的</b> 回復期にある対象を総合的に理解し、機能回復および社会復帰に向けた看護を実践する能力を養う。			
<b>授業の目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 回復期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に把握できる。</li> <li>2. 回復期にある対象の健康上の問題を解決するため、科学的根拠に基づいた看護を展開できる。</li> <li>3. 対象の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる。</li> <li>4. チームにおける看護の専門性を理解できる。</li> <li>5. 看護実践を通じて、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。</li> </ol>			
<b>授業概要</b>			
<p>本実習は、回復期にある対象の身体的側面だけでなく、これまでその人が生活していた家庭や社会における役割、生活習慣、価値観や心理的側面を理解することが求められる。対象の健康上の問題を解決するため、看護過程を展開する。回復期にある対象への看護過程を通して、変化した身体機能に合わせた日常生活行動獲得や自己管理へのアプローチ方法を学ぶ。また、機能回復・社会復帰に向けた医療チームアプローチを通して、他職種との連携や看護の専門性について学ぶ。</p>			
<b>授業計画(進め方)</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。</li> <li>2. 可能な限り回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>3. それぞれの看護過程をケースカンファレンスで検討する。</li> <li>4. 看護計画に基づいて毎日の行動計画を立て、実践する。</li> <li>5. 1日の実習内容と学びを日々のカンファレンスで交流した後、看護過程用紙に整理する。</li> <li>6. 実習終了カンファレンスで学びを交流する。</li> <li>7. 回復期にある対象の理解や看護の役割、アプローチ方法等について、テーマカンファレンスで学びを深める。</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
山口瑞穂子、関口恵子監修 疾患別看護過程の展開 学研 フィジカルアセスメントがみえる 第1版 メディックメディア 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 岡庭豊編 看護師・看護学生のためのレビューブック メディックメディア 竹尾恵子監修 看護技術プラクティス 第3版 学研 病気がみえる vol.2 循環器 第4版 メディックメディア 病気がみえる vol.7 脳・神経 第1版 メディックメディア 看護医学電子辞書			
<b>評価の方法</b>			
成人看護学実習Ⅱ評価表に沿って評価する。			